

付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（東北大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄
【大学全体の取組】 令和2年3月にプロボスト（理事・副学長、CIO兼務）を座長とする「遠隔授業タスクフォース」を設置し、喫緊の課題であった令和2年前期をオンライン授業で実施する方針等を決定、同年4月20日よりオンライン授業を開始した。併せて、オンライン授業の実施に向けての支援を実働するための組織として、教育情報化の担当者や教育のICT利活用に詳しい教職員を中心とした、タスクフォースの下に「遠隔授業ワーキンググループ」を設置し、「オンライン授業ガイド（学生用と教員用）」のウェブサイト作成など、オンライン授業に関する様々な検討や取組を行った。 また、令和2年7月に「東北大学ビジョン2030」をアップデートし、サイバー空間とリアル空間の融合的活用を通して大学の諸活動を拡張する「コネクテッドユニバーシティ戦略」（教育の変革：「オンラインを戦略的に活用した多様な教育プログラムの機動的展開」、「距離・時間・国・文化等の壁を越えた多様な学生の受入れ推進」、「オンラインと対面のベストミックスによるインクルーシブな教育環境の提供」）を策定し、ニューノーマルを先導する取組を推進している。 その後、令和2年12月に「授業実施ポリシー（方針）」として『ニューノーマルに対応した新しい授業形態について』を公表し、これまで実施してきた授業形態（対面型・オンライン型）に加え、各授業科目で学修する内容・特性に合わせ、キャンパスで行う対面授業とオンライン授業を効果的に併用した授業を実施している。
・学習支援システム（ISTU（東北大学インターネットスクール）・Google Classroom）を活用したオンデマンド授業配信、教材提供等を行った。
・WEB会議システム（Google Meet, Microsoft Teams, Zoom等）を活用したリアルタイム配信授業を行った。
・教員向けにオンライン授業環境説明会の実施、オンライン授業のグッドプラクティスをWEB上で公開するなど、授業実施のサポートを行った。
・教員向けにオンライン授業実施に係る支援として、通常の授業TAとは別にETA（IT Expert Teaching Assistants）を配置（100名）するサポートを行った。
・学生及び教員に対して「全学オンライン授業アンケート」を実施し、調査結果から、学生の声を反映させたオンライン授業の改善のポイントや授業オンライン化、その運営に対する教員の期待・提案をまとめ、その結果を本学WEBサイトで公開し、全学で情報を共有した。
・対面授業の実施に際して、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本学が独自に開発したQRコードを利用した入退室管理ツール「学内トレーサビリティシステム」による教室利用者の記録や、サーモカメラ等による検温の徹底、文科省マニュアル「学校の新しい生活様式」に沿う座席配置及び消毒液の配置や換気など、感染症拡大防止の徹底を図っている。
【各学部・研究科の取組例】
【医学部・医学系研究科】 ・定期試験や卒業試験等は、体育館や大教室を利用し、間隔を十分に空ける等の感染対策を講じた上で、すべて対面で実施している。
【工学部・工学研究科】 ・1年次理数科目の講義動画整備として、項目毎に10分前後の動画に編集し、学生が繰り返し視聴して復習し、内容理解を深められるようにする取組を行っている。（1年次学生は受講時だけでなく卒業するまで閲覧可能）

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

【大学全体の取組】

1. 東北大学緊急学生支援パッケージによる支援

令和2年4月に様々な活動の自粛や制限のもとでも、学生一人ひとりが学業に専念でき、持つ力を十分に発揮し、前向きに学生生活を送れるよう、下記内容の支援をパッケージ化して、多面的にサポートしていくことを発表した。本学独自財源により、東日本大震災の経験を生かしたスピード感のあるきめ細かな経済支援の充実を図った。

令和3年度においても、「令和3年度東北大学学生支援パッケージ」として、サポートを継続して行っている。

【①学生参加型ピアサポーター制度の創設及び多様な経済支援の提供】

・本学に在学する学生に、新入生等に対する学習や学生生活その他の多面的な支援活動を行わせることにより、新入生等の学習効果の向上、学生生活への速やかな適応等を図ることを目的として、学生ピアサポーター制度（奨励費を支給：4万円/人）を創設した。学生からの多数の申請により、令和2年度には2,289名、令和3年度には2,548名を採用した。

・アルバイトの自粛等、厳しい制約下においても安心して学生生活を送れるよう、経済的に困窮する学生に対して、緊急給付型奨学金による支援（支給対象者3,606名）や博士後期課程学生を対象（260名）としたグローバル萩奨学金の前倒し給付（通常8月給付を5月へ前倒し給付）を行った。

・大学院学生をETAとして雇用（100名）し、教員のオンライン授業のサポートを行った。

【②学習・学生生活支援】

・学生一人ひとりへの細やかな相談対応として、すべての学生（約17,000名）にアドバイザー教員等（約2,000名）を配置し、オンライン会議ツールを活用し、ピアサポーター及びアドバイザー教員による相談対応やコミュニケーションの場を提供した。

・専門家によるオンライン相談対応により、学業、進路、人間関係、個々の健康など様々な悩みに関する個別相談や、何らかの障害があることを理由に、就学・生活上のつまずきや問題を抱える学生に対するきめ細やかな支援を提供した。

・オンライン学習のためのネットワーク環境支援として、パソコンを所有していない学生に対するパソコンの貸出及び住居のネットワーク環境が不十分な学生に対するWi-Fiルーターの貸出を行った。パソコンの貸出は令和3年度も引き続き行っている。

・自宅でWi-Fi環境が整わない学生に対して、川内北キャンパスの空き教室（キャンパスWi-Fi利用可）を開放した。

・令和2年4月、本学学生有志（学生ベンチャー：㈱Adansons）により、新型コロナウイルス対策情報や各学部・研究科の授業情報を自動取得し配信するLINEBotが開発され、より迅速かつ容易に必要な情報が学生に届く体制を整備した。

・規則正しいリズムで授業へ出席できるよう、本学学生を対象に100円で朝食を提供する支援を令和3年5月から7月にかけて計3回実施した。次回第4回は10月中旬から11月中旬にかけて実施する。

【③課外活動支援】

・課外活動のオンライン活動支援のため、川内課外活動共用施設に令和3年6月に無線LANシステムを導入した。

II. 国際教育支援プロジェクト「Be Global」

新型コロナウイルス感染症の影響による国際的な学生交流事業の停滞、海外留学の停止と留学生の減少による国際活動の鈍化、アクティブラーニングを取り入れた国際共修・体験型授業の非アクティブ化など、コロナ禍で浮き彫りになった課題に挑戦し、ニューノーマル時代におけるグローバル人材を目指す学生への学習・生活を支援するため、令和2年4月より4つのユニットから構成される新たな国際教育支援プロジェクト「Be Global」を展開している。各ユニットの主な取組は、以下のとおりである。

【①オンライン海外留学－オンラインを活用した海外大学への留学体験－】

例年実施している短期海外派遣プログラム（スタディアブロードプログラム）について、令和2年夏に米国及びインドネシアの2大学と共同で「オンライン研修プログラム」を実施し、26名の学生が参加した。オンライン短期派遣プログラムでは、海外大学との教育内容の綿密な連携もあり、アンケートの学生満足度は9割であるとともに、「現地に行っていない分、時間的にも金銭的にも参加しやすかった。」「家にいながら実際に訪れたような気分になった。」などのコメントが寄せられており、経済的事情や時間的制約などに左右されないニューノーマルにおける新たな留学体験ツールとして、機能している。令和3年春にはその規模を7プログラム/87名まで拡充している。

【②オンラインで留学生と共に学ぶ－オンライン国際共修－】

留学生と国内学生が一つの授業での交流を通じて相互理解を深めながら新しい価値観を創造する学習体験として、「国際共修ゼミ」を推進してきたが、コロナ禍においても、令和2年度前期より、オンラインを活用した「国際共修ゼミ」を先駆的に2クラス開講し、北米3大学の留学生が参加した。日本にいながら言語・文化を超えて世界各国の留学生と学ぶことのできる修学環境を確保し、ニューノーマルにおける新たな国際教育を推進している。

【③オンライン留学生教育－オンラインを活用した留学生受入れプログラム－】

英語により学位を取得する国際学士コースでは、令和2年度において10月入学生29名への入学前予備教育を7月よりオンライン授業で実施するとともに、10月以降は、入国した学生に対し、順次オンラインもしくは対面のハイブリッド型授業を実施し、アンケートの学生満足度は9割以上と、従来と同様の修学環境を確保することができた。

【④オンライン留学生支援－オンラインを活用した留学生へのサポート（オンラインヘルプデスク）－】

留学生に対するきめ細やかな支援をより一層充実するため、学生スタッフによるピアサポート「留学生ヘルプデスク」を令和2年6月にオンライン化し、情報を入手しにくく不安を抱えた外国人留学生・研究者に対し、メール等により迅速に対応できる体制を構築した。日常の学業・生活面でのサポートに加えて、特別定額給付金の申請や学内の新型コロナウイルス支援制度の詳細など、令和2年度は41件の相談に対応し、問い合わせの多い内容については広く留学生へ周知している。

Ⅲ.その他の学生支援等の取組

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変した学生を対象として、優先的に授業料免除を実施した（635名）。
 - ・感染拡大防止のため、学生寄宿舍に入居する学生がPCR検査を受検したり、発熱等の新型コロナウイルス感染症の兆候がある場合には、退避用の居室（個室）を準備し、早期に隔離をすることにより、他の学生への生活上、心理的にも影響がないように配慮している。
 - ・課外活動支援のため、「課外活動ガイドライン（STEP 1～4）」を策定し、学生団体の活動制限、活動再開のための学生団体内の感染防止対策確認、競技大会出場やイベント開催時の感染防止対策確認及び施設の利用制限等、感染状況に応じた活動を支援している。
 - ・厚生施設内食堂における新型コロナウイルス感染症対策として、座席数の制限に加え、各店舗のテーブル等に飛沫感染防止パネルを設置し、安全に食事ができるスペースを提供した。
 - ・学生相談・特別支援センターにおいて、コロナ禍の中で新年度を迎えるにあたり、全学生向けに心のケアに関するメッセージを発信するとともに、令和2年度は全ての学部新入生対象の「新型コロナウイルス感染拡大の影響に関するアンケート」調査を実施し、その結果に基づく個別支援等を行った。
- ・学生の諸手続きに係る業務のDX推進として、令和2年6月に総長及びプロボストのリーダーシップの下、「ニューノーマル」を見据えた新たな取組として、「窓口フリー」、「印鑑フリー」、「働き場所フリー」の3つの柱で構成される「オンライン事務化」を宣言した。これを受けて、特に、印鑑を廃止し業務運営のデジタル化を推進する「印鑑フリー」WGにおいては、オンライン授業開始に伴うPC環境がない学生に対するPCの貸与や課外活動に関する申請など、学生の諸手続き等に関する26の押印を廃止にした。これにより、メール等での提出が可能となり、学生の負担軽減とスピーディーな対応を実現している。
- また、窓口業務改革を推進する「窓口フリー」WGにおいては、学生からの問合せに対してこれまで以上に迅速に対応するため、AI搭載型チャットボットを実装し、学生の負担軽減とサービス向上を図っている。
- ・令和2年9月に学生等の感染拡大防止の観点から、対面授業等に使用予定の全540室を対象に換気設備の設置状況及び換気量等に関する実態調査を実施した。この結果をもとに、まずは、各部局等へ居室の収容人員の目安を示すとともに窓や出入口の開放を行う必要性を連絡・周知する取組を実施した。
- 併せて、換気設備の新設及び改繕が必要な居室については、順次対応している。
- ・学生の利用が特に多い川内北キャンパスにおいて、感染防止の観点からトイレの改修を実施し、自動水栓の採用や壁・床を抗菌仕様とするなど、感染対策を施した。

【附属図書館の取組】
I.来館時の感染防止対策 ・サーモカメラ・消毒液・アクリルボード・空気清浄機・フットプリントの設置 ・BCPレベルに合わせた閲覧席の減席 ・グループ学習室の個人利用化、オンライン授業・会議・面接等への利用提供 II.非来館サービス ・図書の郵送貸出 ・館内資料の複写物郵送 ・図書館ガイダンス・情報検索法の動画公開 ・オンラインレファレンス ・図書館職員が教員と連携して担当している全学教育科目「大学生のレポート作成入門」の授業動画配信 ・電子ブック・電子ジャーナル・データベース等について、ワンストップで案内するWEBサイト「自宅で利用できる電子資料」新設 ・全学教育科目のシラバス掲載図書の電子ブックの積極的な購入とその利用促進のためのTwitter等による広報
【各学部・研究科の取組例】
【教育学部・教育学研究科】
・令和２年度は、４月１７日を皮切りに「健康状況把握緊急調査」を全学生あてにメールにて数回実施し、学生の様子を把握した。 ・WEBサイトに「学生悩み事相談のページ」を作り、オンライン授業の受講方法がわからない、新型コロナウイルスが心配、孤独で不安などの悩みへの解決糸口を見つけるための方法や連絡先の情報を掲載している。
【歯学部・歯学研究科】
・歯学部同窓会から学生に対し、１人１万円QUOカードを贈呈し、学生の生活を支援した。 ・２週に１回程度、クラス担任によるネットによるホームルームを開催した。加えて、クラス担任以外に学生10人に対して教員１人を配置し、学習および生活の相談がし易いシステムを構築し運用している。また、学生有志による新入生サポートシステムを構築し運用している。
【工学部・工学研究科】
工学研究科学生相談体制のオンライン化 新型コロナウイルス感染症の流行は今後流動的であり学生生活へ非常に大きな影響を与えうると判断し、令和２年度の比較的早い段階で、対面のみでなく電話（またはGoogle Meet等）での相談が可能な状況に切り替えた。
【農学部・農学研究科】
・学生の就職活動用にオンライン面接室を設置した。
【国際文化研究科】
・新型コロナウイルスが、学生の心身両面の健康、生活、研究・学業の遂行にどのような影響を与え、また研究科が取り組むべき具体的な対応策を検討する基礎データ収集を目的に、英語コースを含む研究科の全学生を対象に、これまで３回のアンケート調査を行った（令和2年6月、12月、令和3年6月に実施、令和3年年12月にも実施予定）。 調査内容の分析から、経済的不安、研究活動への不安及び健康状態への不安に関する時間的変化が把握できた他、研究科WEBサイトに「新型コロナウイルス感染防止関連のお知らせ」を掲載する等、必要な情報を提供し支援を行った。